

インドネシア大統領から感謝の言葉をいただく



大統領と参加者との談話の様子

土木学会は、2005(平成17)年5月31日夕刻、帝国ホテル扇の間で開かれた式典で、スシロ・バンバン・ユドヨノインドネシア共和国大統領より、スマトラ島沖地震・津波による被災地であるバンダ・アチェでの調査・支援活動に対し感謝の言葉をいただいた。

この式は、被災地で支援活動に携わったわが国の機関、団体に、訪日中のユドヨノ大統領が感謝の意を表するため、在日インドネシア共和国大使館が関係者を招待して開催したものである。

土木学会のほか、自衛隊や国際協力機構、日本赤十字など、現地で医療、救護、復旧などの支援に携わった機関や団体の代表者25名が出席、ユドヨノ大統領に謁見した。

土木学会からは、調査団員として現地に派遣された後藤洋三・スマトラ島調査団長、濱田政則・同副団長および柳川博之・土木学会事務局の3名が参列し、ユドヨノ大統領からじきじきに感謝のお言葉をいただいた。

(土木学会国際室 柳川博之)

ACECC第11回理事会開催される

アジア土木学協会連合協議会(ACECC)の第11回理事会が2005(平成17)年5月26日、土木学会において開催された。JSCEからは森地茂会長(当時)、住吉幸彦JSCE代表などが出席し、ACECC会長であるJ.C. Chern CICHE会長のほか、ASCE(米)、CICHE(台)、EA(豪)、KSCE(韓)、PICE(比)からの参加があった。会議では、ACECCの活動報告、JSCE提案の「e-Journal」発行などが議論されたほか、2004(平成16)年12月に発生したスマトラ島沖地震・津波災害(SFET)についてACECCの対応委員会を設置して、活動を行うことが承認された。2007年6月に台湾で開催される第4回アジア土木技術国際会議(4th CECAR)では特別セッションを設けることも承認された。理事会終了後は、SFET報告会を開催し、JSCEならびにわが国の主な活動について今村文彦・東北大学教授、草柳俊二・高知工科大学教授、清野純史・京都大助教授、堀越研一・ACECC担当委員会幹事に報告をいただいたほか、ECM参加学協会の活動報告、また一般の参加者との間で活発な意見交換が行なわれた。次回のACECC 12th ECMは、10月に米国・ロサンゼルスで開催される。



理事会出席者集合写真



理事会の様子

(ACECC担当委員会委員長 奥村文直)

四国支部10周年記念を迎えて



四国支部は、2005(平成17)年度の総会で10周年を迎えました。四国は他の支部のように中心の都市はなく、いい意味で四国は4つであり、各県が協力し合い四国支部を支えてきました。四国支部の誕生は、1995(平成7)年1月24日に中国四国支部の中に故・権野佐昌部会長を委員長とする「設立総会実行委員会」を発足させ、中国四国支部支部長・定井善明が仮議長となり、支部役員を選出し、支部長に建設省四国地方建設局長・山田直重が選出されたことにより始まりました。四国支部は全国8支部の中で最も会員が少なく、現在の四国支部発展を支えているのは創立時に培われた団結力にあると思われます。

本年は10周年を記念して土木の日特別講演会「四国の人・自然と土木」を映画監督松井久子氏と地元の宮武画廊オーナー小西百代氏の対談「もっと元気になってよ、男たち」を催しました。あわせて、パネルディスカッション「21世紀四国の人・自然と土木」と題し、四国の都市の再構築に関して、それぞれの立場から話をいただきました。さらに、四国地方の土木遺産に関するDVDを作成し、四国各県で放映をしました。

四国は「少子化」「高齢化」の問題を他の支部よりいち早く影響を受け、四国支部が何をすべきかを模索する必要に迫られています。今後とも四国支部へのご支援・ご協力を賜ります。(香川大学 松島 学)

「最近の大地震再考フォーラム」が開催される

土木学会の共催で、4月11日に北海道帯広市（主催：北見工業大学・最近の大地震再考フォーラム実行委員会）において、「最近の大地震再考フォーラム」が約480人の参加を得て開催された。

北海道東部太平洋岸は、これまでM8クラスの激震に襲われている。最近では2003(平成15)年9月26日に発生した十勝沖地震の災害が新しいところである。しかし、その後発生した豪雪農村地帯を中心に発生した新潟県中越地震や、スマトラ北西部沖地震からの教訓より地震直後の住民避難対応が課題となっている。したがってフォーラムは今後の北海道における地震災害を軽減する目的から、さまざまな意見交換を行い、それぞれの対応に生かすことを目的として企画した。



開会挨拶の後、「中越地震：阪神の経験は生かされたか？そして新たな課題は？～土木学会・第二次調査団の報告より～」と題する講演が家田仁氏（東京大学大学院教授）により、「住民避難から見た津波防災の課題とその対策」と題した講演が片田敏孝氏（群馬大学助教授）により行われた。次にパネルディスカッション「来たるべき地震に備え、何を、どうする」は講演者に加え、2人のパネラーが加わり行われた。会場からの質問やパネラー間のバトルが繰り広げられ、熱気あるディスカッションは

約1時間半にわたり行われた。最後に主催者による呼びかけ文「地震に強い道東のために」を承認して閉会した。次回は釧路市で開催予定である。本フォーラムは、土木学会よりCPD単位証が交付された。

（北見工業大学 大島俊之）

東京都『かちどき 橋の資料館』を開館—現存する貴重な橋の資料などを一般に公開—

東京都は、隅田川の河口に位置する著名橋・勝鬨橋の変電室をリニューアルし、橋に関係する資料を閲覧したり、建設当時、東洋一の跳開橋であった勝鬨橋の雄姿を見ることができ資料館を2005年(平成17)年5月1日に開館した。『かちどき 橋の資料館』は、東京都が管理する橋梁に関する高度な技術資料や図面などを順次収集、整理、公開するだけでなく、国内の貴重な橋梁に関係する資料なども収集し、全国で唯一の橋に関する資料館を目指している。

なお、勝鬨橋の橋脚に現存する日本の高度な技術力に触れることができる貴重な跳開機械設備等についても、「勝鬨橋ミニツアー」として希望者に公開している。

●開館日時：2005年5月1日(日)から。火、木、土曜日が開館。

午前9:30～午後4:30

●勝鬨橋ミニツアー：勝鬨橋橋脚内見学（木曜日のみ）。往復はがきにて応募

●問合せ先：東京都建設局道路管理部保全課



資料館内部

（東京都建設局道路管理部保全課）

福本昉士教授 米国ASCE賞 (Shortridge Hardesty賞) を受賞

福山大学の福本昉士教授がこのたび2005年米国土木学会（ASCE）賞（ショートリッジ・ハーデステイ賞（Shortridge Hardesty Award））を受賞された。これは昨年の米国構造安定研究会議（SSRC、Structural Stability Research Council）のLynn S. Beedle賞に続く快挙で、今回ほぼ同時期に受賞された土木学会賞（功労賞）と合わせ、日米3冠賞を受けたことになる。

今回のASCE賞（Shortridge Hardesty賞）は1987(昭和62)年に創設され、構造安定研究会議初代委員長の名にちなんで命名された。土木建築の鋼構造安定問題（座屈問題・耐荷力）の研究で顕著な業績のあったASCE会員から毎年1名選出される。同氏の受賞理由は構造工学分野（特に鋼柱、梁、板の座屈耐荷力の研究分野）における永年の顕著な研究業績とされる。米国のこの分野の著名な研究者が受賞し、日本人としては初の受賞者となる。阪神淡路大震災により多くの鋼構造物、橋梁が被災し、その後この分野の耐震構造の研究がわが国で精力的に行われたが、同氏はこの分野でも調査、実験、理論解析などを精力的に行い、その実績が国際的に高く評価されたものと思われる。2005(平成17)年4月20～24日、ニューヨークで行われるASCE構造会議（Structures Congress）においてASCE賞の受賞式が行われた。

（愛知工業大学 教授 青木徹彦）